

道徳研修だより

世羅町立せらひがし小学校

平成 30 年 11 月 21 日

先週は、6年生の授業研究でした。教育センターのサテライト講座、町研究主任研を兼ねていたため、普段より参観者が多い授業でしたが、児童は積極的に発表したり、友達の考えを聞いたりすることで、自分の考えを深めていました。今回は、研究会のまとめと6年生の授業後の協議会で出された意見をまとめました。



1 研究会のまとめ

各学級のまとめをありがとうございました。まとめやミニ研修で出された成果と改善点についてまとめました。(各学級の詳しい内容は、印刷物で確認してください。)

導入～課題設定

○成果 ●改善点

- 日常の問題場面を提示し、課題設定につなぐ。
- 児童と一緒に課題設定をする。
- みんなの共通課題となるように、課題のもたせ方を工夫する。

役割演技

- 見ている児童にも考えさせる。
- ワークシートを読むのではなく、役になりきって言わせる。

思考ツール

- 感情カードの活用。顔を選んだ理由を発表させる。
- 顔の違いを比較して考えさせる。
- ウェビングマップで実態把握をするとともに児童に新しい学びに気付かせる。

深い学び

- 早目に中心発問をし、自分とのかかわりで考えさせるところに時間をとる。
- 深める発問を想定する。
- 必要な発問かどうかを見極める。(予定していても必要ないと判断したら発問しない。)

その他

- 教材の提示の仕方を工夫し、教材理解の内容を図る。
- 授業参観を活用し、保護者も一緒に考えてもらう。
- 繰り返し行うことで自信につなげる。
- シミュレーションにより有効な手立てを考える。
- 集中させるための工夫を行う。
- 何を板書にするか考える。
- 時間配分。考えさせたいところに時間をとる。

★「考え議論する」道徳の授業をめざし、児童にしっかり考え、話し合わせるための手立てがたくさんありました。

2 道徳科の授業研究について〈教育センターサテライト講座の授業後の協議より〉

★6年生『ダン』をどうする?』B相互理解, 寛容

◎「道徳教育で行うカリキュラム・マネジメントを踏まえた道徳の授業の実際」

○本時からの学び●自分ならこうする

①本時のねらいを達成するために総合単元的道徳学習プログラムの取り組みを通して、児童の意識の高まりは有効であったか。

- 他教科との関連で、児童は自分の意見に自信をもって発言していた。
- 授業の型ができていて、児童の意欲と教師の信頼関係が見えた。(クラスづくりが土台)
- 書くことが習慣化されていた。児童の意見に根拠があるものが多かった。
- 「他者と話し合う」「議論する」「自分の意見を発表する」様々な方法で交流が行われている。
- 話し合いのスタイルが確立されていた。
- 机の配置がよかった。
- 教室に道徳の学びを内容項目別に掲示してある。
- 関連項目「Cよりよい学校生活, 集団生活の充実」の学習から、それぞれ発表する, 協力する姿勢が見られた。
- 全体交流の時に、自分たちで進めていくことで理由や筋道立てた表現をするようになり、思考力・判断力・表現力を育てることができる。
- 教科, 特別活動, 常時活動と関連付け, 評価方法を記述して整理されているのがよかった。
- 振り返りに単元の具体例を挙げていくとよい。教材の学習を通して、自分たちの身近なことと捉え、考えたことを結び付けられるようにする。
- 掲示をプログラムに沿って作ってみる。プログラムを意識したのが見えるとよい。
- 授業の中では、プログラムはわかりにくかった。学期に設定されたプログラムを想起する場面があるとよい。
- 家庭・地域とのつながりとして学級通信等で知らせる等を入れてもいいのではないか。
- 道徳ノートを保護者に見せて、保護者からのコメントを入れるとよい。

②本時のねらいを達成するために、導入・展開・終末の手立ては有効であったか。

導入

- アンケートによる導入は、児童の実態把握をする上で有効。
- アンケートと実態とのギャップから課題意識をもたせることで、ねらいとする価値への方向付けができていた。
- 「相手と意見が違ったとき」と示すことでぶれずに思考を深めることができた。

展開

- 子どもたちと役員の両方を、立場を変えて話し合わせることで、多面的・多角的に考え議論することができていた。
- 発問の必然性があった。考えざるを得ない発問(役割を決めて発言)が効果的だった。
- 立場を変えて話し合わせることで、違う意見も受け入れながら伝えることの大切さに

気づかせることができた。

- T Tで発問と板書が同時進行で流れが止まらない。机間指導, 切り返し, 軌道修正などT Tが効果的だった。
- 「理由が大事」と思考することを重視していた。
- 「受け止める」「謙虚」を押さえて中心発問に時間をかける。「尊重する」の中身を考えさせて納得解とする。
- どこを考えさせるか。表面的でない行間の部分を考えさせる。
→「目に見えないところで心を動かされたものは何だったのか。」
- どちらの立場も体験させたことを生かす発問をする。
→「みんなと団地の役員たちの違いはどこだろう。」
→「両方の立場に立ってみてどうだったか。」
- 「規則がわかってあのような提案をした」という文から
→「この話し合いのどこがよかったのか。」
- 「伝え方はどうだったのか。」
→「どうして役員たちは応えてあげようと思ったのか。」
- 後半が強引だったのでは。話し合いのテーマが「相互理解」に沿っていたか疑問。
- 価値に迫る。もっと深められる。発問が価値をねらうのに適切だったか。
- 生活につなげる。一般化→具体的に迫る
- 板書の色使い。早くからオレンジで書かず、「この中で特に大事なものは。」などと尋ね、児童の中から出たところを強調する。

終末

- 導入のアンケートを終末でも使ったところがよかった。
- めあてと振り返りがつながり対応していてよかった。
- 「今の自分は…」という視点をもってしっかり振り返りをしていた。共通解から納得解に進んでいる。(●中学生だと反省文になってしまう。)
- 日直が振り返りを読んで終わっていたのがよかった。
- 振り返りが一般的なものだった。導入のアンケートで具体があればよかったのではない。

その他

- 掲示物が内容項目ごとにまとめてあるので、本時や次の授業につなげることができる。
- 児童の発表の偏り→意図的指名をする。
- 児童の発言を復唱しないほうがよい。
- 児童の考えのよさを交流させてはどうか。→児童同士ほめ合わせる。

たくさんの意見をいただきました。

今後に生かせることがたくさんありました。参考にしてください。

〈授業評価表より〉 (%)

	評 価 項 目	4	3	2	1
		十分 できている	半分以上 できている	あまりで きていない	ほとんどで きていない
主体的な学びを促す効果的な「話し合い」の工夫					
①	教材、人、自分とのかかわりを大切にした指導の工夫	73	27	0	0
	考えの違いを表現したいと思えるような深める発問を工夫している。	70	30	0	0
	ペア・グループトークを充実させている。	70	30	0	0
	児童が考えを深められるような話し合い活動を工夫している。	80	20	0	0
	明確な視点を示し、児童が自分を見つめながら振り返られるように工夫している。	70	30	0	0
②	問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫	63	27	0	0
	児童が考えてみたい、深めたいと思える必然性のある課題設定になっている。	55	45	0	0
	道徳的行為に関する体験的な学習、疑似体験的な表現活動を工夫している。	70	30	0	0
③	深い学びにするための発問等の工夫	72	27	1	0
	物事を多面的・多角的に考えられるような発問をしている。	80	20	0	0
	児童生徒の発言の背景に迫ったり、考えを深めたりするような手立て（切り返し・揺さ振りなど）をしながら授業を進めている。	40	60	0	0
	適切な中心発問である。	70	30	0	0
	中心発問にかかわる時間を十分に確保している。	70	20	10	0
	ねらいと中心発問（場面）が一本になっている。	80	20	0	0
	児童生徒の発言を価値に基づいて分類し、黒板に明示している。	90	10	0	0

3 今後の取り組み

① 2学期の評価について

- ・ 1学期と同様に評価します。
- ・ 3学期は、変容が見られた点を評価できるように研修をする予定です。（2/6）

② 総合単元的道徳学習プログラム

- ・ よかった点、改善点など気付きを赤で書き込んでください。
- ・ プログラムの中で組んだ学習発表会を中心としたユニットの振り返りのワークシート（挑戦カード）を交流します。
- ・ 2学期の振り返りをもとに3学期のプログラムを作成してください。

③ 道徳参観日（1/25）に向けて

- ・ 1/9に学年部で研修をします。
- ・ 今回は教材分析図、略案をもとに指導過程の検討をします。

④ 道徳アンケートの実施

- ・ 12月実施。後日提案します。

⑤ 2学期の振り返り実施

- ・ 1学期同様に児童が振り返りをした後、家庭に持ち帰らせ、保護者のコメントをもらってください。

◎ 総合単元的道徳学習プログラム、教材分析図、道徳参観日略案→提出締め切り 1/11